

# 東遊記 アジア滞在記

ユキーナ・富塚・サントス

1	運命の予言 香港	4
1.1	悪い習慣にギクリとしたら・・・	4
1.2	香港のインド人	5
1.3	私がやめるべきこと	7
1.4	素直なところ 香港で読んだ般若心経	8
1.5	冷取りとは何か	10
1.6	いけてる人間、200%の能力発揮	11
1.7	香港のクレイジーキャッツ	14
1.8	笑いの大切さ、「わかっちゃいるけどやめられねえ」こと	16
1.9	香港で一番うまいもの うなるワンタン!	17
2	進歩と混沌と・・・上海滞在記	19
2.1	BRICS と中国	19
2.2	上海で最もうまいもの	20
2.3	腕組み人種 (攻撃は最大の防御なり)	21
2.4	上海に見るハイ・アンド・ロー (天国と地獄)	23
2.5	上海人のいう桃源郷 成都 (シェンドウ)	24
2.6	公用語について考えた マンダリン	25
2.7	かつて日本がこうだった、ワンスアポンアタイムイン	26
2.8	恋愛も国も一緒、自立ということ	27
2.9	Even though それでもなお・・・	30
3	香港・上海 金融業会	30
3.1	時代と外資系金融	30
3.2	日本男性の最高の贅沢 ノミ男の夢	32
4	住んでもいい国 シンガポール	34
4.1	ホテルでの鉄則	35

4.2 優しい女の眠る街 シンガポール..... 36

## 1 運命の予言 香港

### 1.1 悪い習慣にギクリとしたら・・・

何度か書いたが、悪い習慣のことをヴィツイオという。

私にとっての悪い習慣、いわずと知れた、飲酒である。酒は命の水なれど、度を過ぎれば体を疲れさせる。今しみじみこのことを考えている。

さて、ヴァカボンダ（放浪者）の私は2006年の正月を香港で過ごしている。職探し兼遊びの旅、アジアの国から遠く、インド天竺を目指せば西遊記となるが、ヨーロッパからジパング、日本に戻らず、アジアの国でだらだら遊んでいるので、東遊記と表現するのが適当だろう。

香港は返還前に一度訪れた。お決まりの観光コースをまわり、ガイドブックに載った店で食事し、化粧品を買い込んで帰った気がする。日本人の旅行にありがちな、とりあえず制覇したが、何となく帰って疲れた旅だった。

今回はフライトが遅かったこともあり、朝寝をして、のんびり風呂に入り、身支度をしてお外出した。九龍公園をぶらつき、様変わりした香港を眺める。

暖かな気も、躍動感のある進歩もカルチャーの多様性も、見ていて心地よかった。何よりも空が青く、綺麗だった。中国庭園の竹林では、おじさん達が将棋に興じ、少し離れたところから、インドネシアダンスミュージックが流れてくる。西洋人、インド人、あらゆる人種が元旦の休日をのんびり過ごしていた。

私もしばらく、空を眺めてぼうっとした。

これだけたくさん、いろんな国をまわっていると、水も違うので体も疲れる。カルチャーの強さを感じ、バランスを失うことがある。だから余計に空を求めていたような気がする。未来永劫かわらぬ空である。たとえ地球がなくなっても、宇宙に空は広がる。そんな思想が心に浮かんできた。イタリアを愛したのも、物質的な空に触れていたかったからかもしれない。

九龍公園にはチムサッチョイイーストから入った。してみると、反対側に大通りがあると予測して、反対側に渡ろうとした。人の流れに沿って歩くと、歩道橋を渡り、新しく開発されたような湾岸エリアに出た。

珍しいので写真を撮って、広場をぶらついて引き返そうとした。

## 1.2 香港のインド人

私を追い越すようにして、声をかけてきた人がいる。この湾岸広場の植え込みに、腰掛けていたインド人である。ターバンを巻いているからおそらくシーク教徒だと思う。

「あんたには、幸運の相がある。」

キョトンとする私に畳み掛けるように、続ける。

「俺は、占い師だ。俺にはわかる、俺は滅多に人に声はかけないが、あんたには強運の相がある・・・いいか、2006年の二月にいいことが三つ起こる。その運を逃さないようにしろ・・・」

申し訳ないが、私はお金を持っていない、と私が彼に答えた。事実、お金が必要なので、両替所かATMを探していたところだったのだ。

私の反応には動じないで、彼は手に持っていた手帳？風の小さなブリーフケースから何か、本当に、本当に小さな紙切れを取り出し、くちやくちや丸めて私の右手に握らせた。今まであんまりいいことは無かっただろうが、今年が幸運の年だ・・・等と話しかけながら、彼はさらに続けた。

お前の好きな花は何だ？

とっさに浮かんだものは、バラである。私は rose だと答え、占い師は彼の手帳の中に挟んである、これまた別の白い紙に rose と書いた。

お前の好きな色は？

緑？一瞬間をおいて私が答える。彼が再び問いかける。好きな色は？

いろいろ、好きな色があって、今頭に浮かんできたのは緑とピンク・・・

この手の質問は、直感で答えなければいけない。昔から緑は気に入っていたが、イタリアにかぶれてから、自分の色、マイカラーを持っていなかった。最近の私が引き寄せられる色、それは何といてもピンクである。

緑とピンク、どちらがより好きな色だ？という問いかけに、私はすかさずピンクと答え、彼は rose の下に pink と書いた。

最初に紙切れを握らされた右手をつかみ、その握ったままの右手に息をかけるという。言われたとおりにする。Rose、pink と書いた紙の下に、奴が説明しながら数字を書い